

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099900021		
法人名	社会福祉法人 慈光会		
事業所名	グループホーム幸		
所在地	田川郡大任町今任原3401-116 (電話) 0947-63-4150		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 11 日	評価結果確定日	令和 2 年 12 月 11 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www. kai gokensaku. jp/
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな高台にあり、近くにはゆめマートやおおとう桜街道など地域に根付いた施設からも近く利便の良い所にあります。

近隣と比較しても利用料が安いのが特筆される（介1で71000程度）ところです。

併設施設には特別養護老人ホーム愛寿園があり施設の備品を使用（自販機で買い物、機械浴を借りての入浴）したり合同での行事（夏祭り、敬老会、花見、クリスマス会）で地域住民との交流の機会をつくったり重度化した場合は優先的な受け入れが出来る体制が確立されています。

また、母体は浄土真宗の寺院でありそれを活かしてホーム物故者の供養を毎年行っています。それ以外にも供養や納骨の相談など有れば受けられるように態勢づくりをしています。

入居してから重度化、あるいは亡くなってもいつまでもその方に寄り添っていくことの出来るホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然環境豊かな場所に位置し、同法人の特別養護老人ホームの敷地の一角に建てられている。特別養護老人ホームとは連携がとれており、要介護度や、身体機能の重度化に応じて利用者が特養へ移行したケースがある。また移行が円滑にできるように、利用料金設定も安価に抑えられている。楽しみの一つである食事に対して特に力を入れており、利用者の趣向に沿った料理を基本とし、敷地内で育てた野菜を使って料理をしたり、地元産の米を使用したりしている。

事業所の理念である「ここがあなたの幸せである家」に基づいた介護が提供できるように、職員は、理念を理解し実践することを心掛けている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時など全員揃った時に唱和するようにして理念の共有に努めています。それを通して入居者それぞれのその人らしさを大切にし「ここがあなたの幸せでありつづける家」という理念の実践が出来るように日々努めている。	事業所の理念である「ここがあなたの幸せである家」をミーティングや全職員が集まる際に唱和している。また「地域の住民として…」といった地域密着型の視点があるスローガンも別に掲げて掲示し、職員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前任者以降出来ていなかった近所の方との交流も「台風で何かあったら言って下さい」「雨が降りよるから早く洗濯物取入れな」というやり取りなど出来るようになって来ている。 母体の寺院の門徒さんも訪ねてきたりすることもあります。 地産地消を趣旨に朝食で大任町産の納豆を提供する等の試みも行っています。	事業所主催の行事として、今年は花火大会を開催し、近隣の住民に声かけし一緒に楽しむことができた。また、救命講習を主宰し、住民に講習の案内をおこなった。福岡県の「女性と子供の見守り企業」に登録し、ステッカーを貼った事業所の車両を日常の買い物や病院受診の送迎に使用している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で常に介護相談の呼びかけを行っている。キャラバンメイト研修修了者が事業所に2名おり常時相談を受けれる体制をとっている。 相談から実際に入居に至った実績もあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度のペースで運営推進会議を開催（コロナ禍のおり現在は資料配布のみ）している。 会議の議員に関しては地区の住民、家族がいるがなかなか参加してもらえず運営推進会議に対しての意義が伝わりづらいというのが課題としてある。」	運営推進会議は2か月に1度開催されており、利用者家族や市の職員、地域包括支援センター、民生委員、特養の介護長、生活相談員が参加している。コロナ禍のため、開催しない際は、事業所の状況を書面にて配布といった形態をとっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場、包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらい事業所のサービスについて忌憚なき意見を常に頂いています。	市の担当者へは、月に一度定期的に訪問しており、日頃からの連携と関係性の構築を心掛けている。地域にあるグループホームの空床状況が共有されており、事業所も登録している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年六月、やむなく身体拘束を行った事例がある。 その時は市町村や広域連合に相談しながら適切なプロセス（家族への説明同意、中途記録、外せるか否かの検討会）にのっとり行いました。また死後のカンファレンスも行っています。 研修に関しても愛寿園身体拘束廃止委員会と合同で年四回程度行っている。	事業所の玄関は日中施錠はされておらず、玄関にセンサーに連動したチャイムが設置されている。職員は利用者の外出傾向を介護ソフトを活用するなどして、把握するような工夫もしている。医療的に身体拘束をせざるを得ないケースにおいても、チェックシートの活用、評価により適切に対応している。身体拘束廃止委員会は3か月に1度開催されている。	施錠以外の身体拘束に関して、職員間で検討し、身体拘束をしないケアの実践について取り組んで欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	“職員が居心地のいい環境は入居者にとってもいい環境である”を趣旨に環境の整備、勤務体系の融通等を聞かせるように配慮している。そのため職員間のチームワークも良く結果良い介護を入居者に提供出来る風土が自然に整っていると自負している		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を使う機会はないが社会福祉協議会や法律事務所と相談連携できる体制を整えている途中である。事業所内には常に事業や制度についての資料を掲示しているが研修についてはまだ行っていないというのが実情である。	成年後見制度や日常生活自立支援事業の説明は、入居前オリエンテーションで行い、パンフレットや資料も入口にわかりやすく常備している。	外部研修が開催されていない状況ではあるが、年間研修計画等を策定して、職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学習し、スタッフで内容を共有していくことを期待します。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書と契約書を提示して口頭で説明しているがそれ以外にも契約書と説明書の中身を分かりやすく説明した“入居時オリエンテーション”の冊子も活用して起こりうるトラブル回避、より分かりやすい説明になるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や年二回の家族交流会（今年はコロナ禍で行えていない）などで家族の希望や意見を聞きそれを反映させている。便器を取り換える、スロープに手すりをつける等家族からの要望を反映した実績もある。	家族会は年に2回計画されており、意見としてあがった玄関スロープの手すり設置や洗浄便座の設置等、環境の改善を行っている。食事に関しては、パン食を希望する声を受けて選択制とした。外出の希望があれば、出かけた場所を聞いて、図書館やカフェへ出かけている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従業員からは勤務に関する意見が自発的に出てきています。管理者はそれを汲み取り職員の自主性を尊重して柔軟に業務改善に努めている。	職員が過ごしやすい（働きやすい）環境が、利用者にとっても過ごしやすいという、事業所方針のもと、職員が意見や希望を伝えやすい風土があり、庭に畑をつくり、作物を育て、利用者に食べてもらいたいといった意見が反映され、実現できている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は勤怠や勤務態度、やる気を考慮した上で個々の能力を評価し職場環境の向上に努めている。やる気のある職員には研修会や資格取得などの情報提供を行って資質向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	事業所には30代から70代まで幅広い層の職員が働いている。以前は外国籍の方やLGBTの方も働いていた。 年齢や働く時間帯などまちまちであるが、それぞれに役割があり役割を通じて自己実現をしてもらえるよう取り組んでいる。	30歳代から70歳代の職員が勤務しており、状況に応じて、時間短縮勤務に変更して、勤務を継続することができる。職員の募集、採用では、年齢や性別で採用を排除することはない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護については入居時に説明を行っている。今のところは不要であるという家族も多いが共有スペースに成年後見や自立支援事業に関する資料を用意している。 教育や啓発の一環として入居者のおやつに就労支援事業所の作っているパンやフェアトレードのチョコレートやコーヒーを提供している	一部職員が、外部研修に行った内容を内部にて伝達研修を行っていたが、直近では外部研修に参加できていない。	外部研修が行われていない状況であるが、年間の研修計画をたて、対面研修以外の方法等も検討をおこない、人権教育、啓発活動に取り組むことを期待します。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月に一度行っている。変わったところでは元保険セールスマンによるコミュニケーション講座や僧侶によるターミナルケアの講習などを実施した。 外部の研修はコロナ禍の現状があり参加出来ていないのが実情である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上野病院が独自で主催している空き室ネットワーク事業に昨年より参加している。それを通じて同業者、医療関係者との交流も始まっておりそこから入居に繋がった事例もある。 グループホーム協議会には加盟しているが積極的な参加が出来ていないのが実情である。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には入院先や居宅などに訪問して馴染みの関係づくり構築に努めている。 要望など有ればケアプランに盛り込んで本人の要望をかなえるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく家族訪問や話を聞くなどしてニーズの聞き取りなどを通じて入居に対する不安度を解消できるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居の制度を使ってもらいグループホームで生活できるか否かを事前に見極める制度を導入しており、入居希望者には積極的な活用をお願いしている。従業者からも体験入居の様子を見てもらう事で双方納得のいく形で入居に至っていると自負している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活習慣を大事にし、手伝いをしてもらい、会話を楽しむ等特技や生活歴を活かせる環境を構築している。職員と入居者相互に一つの家であると感じられるような関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に過ごせるようなイベント企画の立案や外泊支援できる環境は作れている。月に一度の状態報告を通して家族も共に本人を支えるチーム作りの体制を構築している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地域の知人や友人が訪ねてきたり、かかりつけ医受診の継続、馴染みの場所や外泊などの“関係の途切れないう支援”を実施している。	職員は、利用者の馴染みの人や場所について、利用開始時に、利用者、家族から聞き取りをおこなっている。以前から通っている美容室に定期的に通えるように支援したり、もともとのかかりつけ医への受診ができるように、送迎支援したりして、関係性の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間のコミュニケーションを職員が取り持ち、時間を楽しく過ごせるようにしてもらっている。ホーム内での友人関係が円滑になるように支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の特養に移行した方もいるが、必ず様子伺いに管理者や職員が訪れている。幸で亡くなった方に関しては物故者の位牌をつくり、ホーム内であるがささやかに供養を行っている。またその際には家族を招くなどもしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介助者、入居者がそれぞれ立場を考慮した声掛けなどして意向の把握をするように努めながら援助にあたっている。 日の状態や環境の変化などで意向が変わったり上手く主張できない人もいるがそぶりや言動から意向を読み取るように努めている。	利用者の思いは職員2人体制で聞き意向の把握に努めている。利用者の嗜好を取り入れパン食を提供したり、家族から利用者の楽しみにしていたことや趣味を聞き取り、在宅の頃と変わらない暮らしができる様に工夫をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活が、在宅での生活を再現したものであるように家族や関係機関などから情報収集を行っています。 生活歴を把握したうえで“暮らしの継続”を意識して情報の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの中で入居者の心身状態や持てる能力の把握に努めている。些細な変化は共有して介護に活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズは極力本人の言葉を大事にして取入れています。（「100歳まで生きたい」「もう息子に迷惑はかけられない」）本人の思いを取入れたサービス計画は各担当者の評価や介護支援専門員のモニタリングを通して支援体系や不測の際のプラン変更等の対応も出来ている。	担当職員以外の介護職員からも意見を聞き3ヶ月に1回はモニタリングをして計画の見直しをしている。介護保険更新認定された際は必ず情報開示を求め、計画見直しの参考になっている。家族にも介護計画の承認を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の生活状況の把握はリアルタイムで介護ソフトに入力されており状態の把握が速やかに出来るようになっている。 それを元に介護記録の変更をしたり異常に気が付いたという事例もある。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や暮らしの継続において最良の方法を常に考えている。本人や家族の意向に対して柔軟なサービス提供が行えるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの関係が絶えないよう在宅時に利用していた所への継続した利用を家族とも協力して行っている。菩提寺のお参りに参加した等の実績もあります。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にはその人のデータが残っており、それを活用するのにかかりつけ医とのつながりを大切にすることを目的に、入居後もかかりつけ医の継続診察をしている。受診は必ず本人を連れて診察してもらい、疾病や異常の早期発見に努めている。家族への報告方法は介護ソフトを使い内容記載と状態を全員把握できている。	入所前のかかりつけ医にそのまま受診されている。病院までは地域内は送迎し受診に付き添っている。地域外は家族の付添をお願いしている。その方法は家族と入所時に話し合い、合意を得ている。受診の様子は特変がなければ、月1回の支払時に家族に話したり、請求書に受診の様子を同封したりしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携が図れており24時間何かあれば連絡出来る関係性が出来ている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者との面会は頻繁に行っており、それを通して病院職員と関係性を作っている。今後の方針や家族の意向など踏まえて早期退院が出来るような体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の急な変化があった際は懇意にしている24時間体制の病院で速やかに見てもらえる体制づくりをしている。重度化や終末期の指針はあるが、現在幸ではターミナルケア実績がないのが現状である。重度化した場合は系列施設特養愛寿園への移行体制は出来ており、実績も多数ある。	利用開始時に重度化の対応について説明し承諾を得ている。家族や職員と情報交換して親族と本人の意向を大切にしている。希望があれば、同敷地内にある特別養護老人ホームに移行する体制はある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所には応急手当普及員がおり（管理者）年に一回程度、虫に刺された時等の対処法を研修で行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施。 マニュアルを新しく作成し備蓄食材（インスタントご飯やお粥、飲料水）なども常備しているが、過日の台風10号上陸時にはヒヤリとさせられたところがあったのは否めない所でした。	マニュアルを策定して年1回は夜間を想定し実施している。その際消火器の訓練など消防署の協力も得ている。訓練の際は地域への呼びかけも行っている。 災害の際の米やモバイルバッテリー、毛布などが準備されている。	水の備蓄は必ず必要である。非常時に備えて水、レトルト食品などを3日分備蓄して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あらゆるプライバシー保護を考え、普段のケアを見直し振り返り、声掛けの確認をスタッフ全員で行っている。	他の家族の面会時や外来者がいる時に職員が利用者のプライバシーを話さないように注意している。部屋の訪問時は内容が漏れないように戸を閉めてお話ししている。外部研修に参加して職員の意識の向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を把握するため日常の動作や動作を観察してそこから可能な限り本人の自己決定できるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての日課はあるが、一人一人のペースに合わせてその日の過ごし方を優先するように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入や外出時の更衣など本人に選んでもらってからの購入、介助を行っている。髪型にしても馴染みの美容院の継続、訪問美容師にパーマ等あててもらえるような体制を取っており、おしゃれという面での支援は十分できている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食献立表を提示。希望のある人には配膳や後片付けを手伝ってもらっている。 特養の厨房からメニューが運ばれてくるので献立は決まっているがその中で炊き込みご飯や納豆、梅干しなどの食材を活用している。月一度の“食事レク”という形式で、珍しい食事や入居者に選んでもらった食事を提供する機会も作っている。	利用者には食事の配膳や片付けなどできる家事をやって頂いている。圍の畑でとれた野菜を材料に調理して食べる取組や、利用者のリクエストに応じてチキンラーメンなどを提供する等、楽しむ工夫が出来ている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通しての食事、水分摂取量を介護ソフトに記録して、状態把握が簡単にできるように出来ている。 パン食や麺食が好みの方には、臨時でパンを提供する等の配慮も行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症や誤嚥性肺炎の予防を趣旨に個々の能力に合わせた口腔ケアを実施している。 義歯の洗浄消毒もこまめに行い誤嚥性肺炎予防に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護ソフトで排便記録をつけている。それが自動的に排便表になる仕組みを作っている。それを活用してトイレ介助誘導のアプリにしている。二年前と比較して紙パンツの使用量が約半分まで軽減した事例もある。 失禁が見られた場合も“何気なく速やか”にを第一義に対応をしている。	ソワソワするなどのサインを把握し、他者に気づかれないようにトイレに誘導している。 排泄の時間帯を把握して、紙パンツの量が半分に減った利用者もいる。下剤の効く時間帯を把握してトイレに誘導するなどの支援をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護ソフトに排便の間隔を入力することで間隔が空いたら下剤投与するなど対応が出来るような体制を整えている。 排便困難時は医師と相談しながら排便コントロールを行っている。現在は、みな概ね排便ペースみだれる事は無い様子です。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週三回固定で入浴の日を設けているが、それ以外にも失禁や受診日に応じて臨時的に入浴する日を作り、月10回以上は入浴出来ている。 気の乗らない方に対しては誘導する人、時間を変えて対応している。 足湯や清拭も取入れて幅広く身体衛生保持に努めている。	基本は火木土の入浴の日を設け週2回～3回は入浴しているが、毎日入浴できる準備がある。 季節に応じてゆず湯にしたり入浴剤を入れ、入浴を楽しんでもらう工夫をしている。身体が不自由な方は特別養護老人ホームの機械浴を利用することもある。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や小休憩など本人のリズムを優先して常識の範囲内で好きに行ってもらっている。 夜間不眠者はいないが、たまに夜間起きてくる方がいたときはお茶を飲んでもらったりして、リラックスしてすぐ休んで頂けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は現在全て一包化してもらい飲み間違い防止に努めている。薬に関しては既往歴や内服薬が把握できるようにファイリングしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の能力に応じて、調理や片づけ、洗濯物畳みなどの役割を分担して手伝ってもらっている。月に一度のペースでおやつレク、食事レクを行い、日頃と違い楽しみながら調理に参加出来る機会も作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年にはコロナ禍で思うように外出する機会が作れなかったのが歯がゆい所である。過去にはおおう桜街道、ふくちのち、めんべい工場などにも行く機会があったがコロナ禍が落ち着いてから来年以降の課題としたい所である。	地域の道の駅に買い物に行ったり受診の際に馴染みの方の自宅に寄って帰る事もある。地域のせんべい工場に見学に行ったり、外食でハンバーガーを食べに行くと喜ばれたこともある。パンなどの販売も定期的にきている。冬には、地域のイルミネーションの見学に行く。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方は、全利用者の中で二名ほどである。その中で買い物をしたりしている。事務所預りの方に関しても、本人の意向を確認して、買い物の代行をしてお金を持っている範囲で使えるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話はすぐに取り次ぐように対応をしている。手紙を書く人はいないが、いたときの為にかけるような支援体制（ハガキの購入、見守り）を取っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい環境にするため照明や空調の調整を行い、暑からず寒からずの調整をして、不快の無いように努めている。季節によって掲示物や展示物を変えて季節感を感じられるようにしている。	共用空間ではインターネットを使って、ラジオ体操や演歌などの歌を流したりしている。動画を流して、映画などを楽しむ空間づくりを工夫している。明るさにも配慮がされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごす人、共用スペースで過ごす人など思い思いに過ごしているが、共用スペースではソファを活用して気の合った方との談話の場所の確保をしている。自室では、馴染みの家具などに囲まれ過ごす人もおり、個々の居場所は確立できている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具電化製品、好きな俳優のCDやポスター、畳マットや座椅子など自由に持ちこんでいる。それを使いやすい位置に設置して、本人の営んでいた生活に近づけるように支援をしている。	利用者入居前に使い慣れていた物は、自由に持ち込んでいる。仏壇や家族写真などの持ち込みもでき、本人の居心地よさを重視した居室になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は各所手すりを備えており、部屋やトイレには分かりやすいように表札や案内を設置している。 スタッフは現存の能力を把握したうえで自立した生活が出来るよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		